

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成26年度 第3回短期大学会議教育改革ICT運営委員会 議事録

I. 日 時 平成26年7月26日(土) 13:30~15:30

場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 戸高委員長、豊田委員、岡本委員、三田委員、松井委員、小棹委員
(事務局 井端事務局長、平田職員)

III. 検討事項

今回は、6月から実施した短期大学就業力コンソーシアム・卒業生アンケートの結果を確認し、9月4日の短期大学教育改革ICT戦略会議で報告する内容を検討した他、短期大学会議の司会分担など運営について確認した。

1. 卒業生アンケート結果と短大会議での報告内容

(1) 卒業生アンケート結果の確認

- ① アンケートは6月~7月に Web システム (Google フォーム) により実施し、対象者は卒業1~3年の卒業生 6,816名、回答者数は 642名 (女性 546名、男性 96名) で回答率 9.4%、卒業年は平成 26年 3月 209名、25年 254名、24年 167名で調査対象ととしていない 23年 12名もあった。
- ② 回答の多かった職種は保育・幼稚園教諭で、製造業で、業種も同様に保育、卸売・小売、製造が多かった。
- ③ 「職場で発揮できている能力、身に付けておくべきだった能力」について、保育士では「大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識・理解」、「他の人と効率よく仕事をする力」、「他の人に意図を明確に伝える力」、「記録を力」が必要とされていることがわかった。事務職では「コンピュータやインターネットを活用する力」、販売職では「他の人と効率よく仕事をする力」を重視しており、接客職では各能力とも平均的に求められているが、わずかながら他能力より「外国語で書いたり話したりする力」が求められていることがわかった。いずれの職種も「チームを統率する力」の割合が低いのは、勤務年数が浅い卒業生が対象であったためと推測される。
- ④ 対人関係能力 (汎用的スキル) は、教育で開発できる能力ではなく、特に短大で身に付けさせることは難しいので、このような能力をもともと持っている学生を中心に高める努力をするほうがよいと思われる。なお、コンピュータスキル、外国語は高校からの能力が関係しているように思われる。
- ⑤ 自由記述では、「知識だけでなく実技教育も必要」「試験には論述式も必要」「購入しても使わない教材があった」「詰め込みで目の前のことをこなすのに一杯で、夏または冬休みでよいので勉強、ゼミ、課外活動に取り組みたい」「クラスによって授業内容や成績評価が異なる」といった意見があり、は資格をとらせることに終始されているようであるが、学生は身につけていないと感じているのではないかと、短期大学士力が身につけていないように読み取れた。

(2) 短大会議での報告内容

主に、以下の点に留意して資料化して報告する。

- ① 「もっと身につけておくべきだったと思われる力」回答状況の類似性（学系別系統）は、平均と範囲（最大値と最小値の差）を出し、最大と最小は出さないことにした。また、職種別回答の類似性を出して、参加校が自大学の結果と比較できるようにする。
- ② 職種別は七つの職種から出し、グラフは能力ごとに赤と青を隣に並べて表記する。
- ③ 自由記述は、先ほど確認した内容を改善してほしい意見として要約して報告する。

2. 短期大学会議の司会分担など運営

(1) 会議の司会分担

事例紹介2件は岡本委員、中教審の短期大学学士力に関する話題提供は岡本委員、短期大学就業力コンソーシアムの活動報告・活用紹介・意見交換は豊田委員が担当することにした。

(2) 会議への参加呼びかけについて留意点

- ① 会議の趣旨を理解し学内に参加を呼びかけてもらえるよう、開催案内の文書は以下の点に留意して作成することにした。
 - ・専門学校との優位性、専門学校、専修学校が新しい高等教育機関として社会と連携した教育を展開することが国の方針で決まっていること。
 - ・そのような状況を踏まえると、短期大学学士力として差別化をしていかななくてはならず、そのためには、今の短期大学の教育の現状をエビデンスデータベースで分析しておく必要がある。そこで、本協会では短期大学就業力コンソーシアムを立ち上げ、教育点検を行ったが、併せて、学士力について中央教育審議会から意見や動向を踏まえて今後の短期大学の新たな教育改善に向けた見直しができるかと信じている。
- ② 学内への参加呼びかけを広く行ってもらうため、加盟校・非加盟校への案内以外に学科長宛にも案内することにし、学科主任や順ずる方へ出席いただきたい旨を記載した添書を同封することにした。